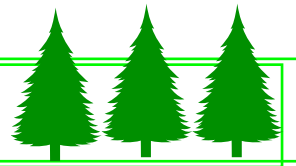


みつぎ便り



第238号 7月号 令和8年6月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



コツキミソウ

見次公園の電話ボックスの近くにコツキミソウが咲いています。名前の通り、ツキミソウの中では一番小さな花を咲かせます。

花や木の名前をカタカナで書くようになりましたがピンとこないものもたくさんあります。この花こそ今回は漢字で呼ばせてもらいます。

その種類もたくさんあり、広くは月見草と呼ばれていますが、中には待宵草のことも含まれます。もともと帰化植物で訳す時アメリカからは

月見草で、中国からが待宵草と翻訳されたようです。その上、日本の二人の作家、竹久夢二の「宵待草」太宰修の「富嶽百景」に月見草がうたわれていますが、その絵からも惑わされています。

開花時期は夕方咲き始め朝方には萎む一夜花です。そのはかなさもあまり魅惑的な花です。
(直)



ヒメジャノメ

ヒメジャノメ(姫蛇目)は、タテハチョウ科の仲間です。体長は十八〜三十程度で、翅の色は表も裏も薄茶色の地味な色合いをしています。翅の裏面には、白く細い帯状の模様と蛇の目が特徴で、表面には、大小

複数個の対の蛇の目模様だけがあります。

九州から北海道まで広く分布しており、五月〜十月頃によく見られます。生息しているところは、明るい草原や河川敷などによく現れ、飛び方もふわふわと比較的ゆるやかに飛び、草の葉の上によく止まるのでこの時にゆつくりと観察することができますと思います。

幼虫の食性は、イネ科の植物、カヤリグサ科などの葉を摂っているようです。この公園にもイネ科、カヤリグサ科の草が多いので、ここで繁殖をしているかもしれません。成虫は、花を訪れることはほとんどなく、樹液、腐果、獣糞などに集まるようです。
(圭)

